平成28年10月15日

海と日本プロジェクト　ワークショップ「磯の観察会」

実施報告書

展示部魚類展示課　玉井健太

井上美紀

園山はるか

実 施 者：玉井健太、井上美紀、園山はるか、海響館ボランティア2名、実習生1名

実施目的：海と日本プロジェクト海に学ぼう「くっつきから覗く海の世界」の関連事業の一つとして、身近な磯にすむくっつく生き物知ってもらう。水族館の飼育員と一緒になって、観察の楽しさ、生き物の不思議さ、自然とふれあう楽しさを体験してもらう。

実施期間：平成28年10月15日（土）

実施場所：関見台公園（山口県下関市宮崎町）

実施結果：

1回目　平成28年9月3日（土）、9組25名（台風のため中止）

2回目　平成28年9月17日（土）、7組23名（台風のため中止）

3回目　平成28年10月15日（土）、8組26名（2組10名欠席）

募集人員各回25名までとし、館内ポスター、HP、下関市市報、生物専門雑誌にて事前告知・募集し、館内応募箱および郵送、FAXにて応募していただいた結果、28組92名の応募があった。台風の為、1、2回目は中止とした。その後、諸事情により当日欠席が2組と、当日急遽参加者の家族が2名増え、結果的に6組16名の参加があった。当日の参加者は全て下関市内在住の方だったが、応募は、山陽小野田市1組、防府市1組、福岡市1組、北九州市2組、大分県1組で、県外の申込者もいた。

進行は、挨拶、イベント趣旨説明、磯での観察の説明、生物の危険性についての諸注意を行ったあと、休憩を挟みながら2回に分けて磯での観察・生き物採集を行った。こちらで決めた観察範囲を説明し、その範囲内で各組ごとに自由に活動していただいた。その後、生物の解説、気に入った生き物をスケッチ、スケッチの発表、アンケートの記入、採集した生き物のリリースを行い、解散した。

事前に下見をし、駐車場も確認したが、開催当日は周辺学校の運動会とかさなり、駐車スペースが少なく、誘導が必要となった。昨年度の反省を活かし、応募時に「連絡のつきやすい番号」の記入を促したこともあって、応募者への連絡がスムーズに行えたが、固定電話を記入された方とは当日に連絡が取れないまま現地に来られなかった。次回は「携帯電話などの連絡のつきやすい番号」とさらに文章を工夫したい。

参加者の反応は、非常によく、アンケート結果より「潮だまりの石を動かすといろんな生き物がいること」、「ヤドカリが海藻を食べること」を知った、「採集したガザミが脱皮した」など、自分たちで探し、観察することで知ることができ、目的であった「身近な磯にすむくっつく生き物知ってもらう観察の楽しさ、生き物の不思議さ、自然とふれあう楽しさの体験」が達成できた。また、海岸を移動時は貝殻やシーグラスを探しながら移動する参加者もおり、冬は漂着物を探すのも海岸での楽しい遊びと紹介し、年中楽しめる場所だということも知っていただけた。

今後の改善として、今回の観察会は助成を受けている為、助成団体である日本財団への実施報告書に添付する書類などを把握している当館の担当スタッフが観察会のスタッフとして運営に携わることで企画目的を明確にし、イベントをより円滑に運営できると感じた。また、こちらの目的とする「くっつく生き物を知ってもらう」という点への誘導が上手く行えず、参加者の多くはよく動く魚や、見つけやすいカニ、ヤドカリ類に興味や関心が高かったように感じた。興味を持った生き物だけではなく、こちらが知ってもらいたい生き物へ関心を誘導するようなプログラムや解説の工夫が必要と感じた。

今回は磯であまり遊んだことがない方が参加する前提でプログラムを組み、生き物の名前を知ることより、生き物を見つける、採る楽しさを重視し、自ら採った生き物をよく観察することにし、図鑑で生き物を調べる時間は10分程度にした。

課題はあったが、今回の観察会を通して参加者は自然にふれあうことの楽しさを再認識されたと感じられる。子供たちが地元の磯などで遊ぶ機会が少なくなっている現代に、安全に楽しく磯で遊ぶ方法をレクチャーすることで生き物により興味を持ってもらえる機会を増やすことができると思われるので教育的意義が高く、普及啓発の観点からも十分に意味のあるものである。上記の課題を考慮すれば、より充実したイベントになると考えられ、来年度からもぜひ地元に根差した生き物観察会を行うべきであると考える。